

## 教育の情報化の推進に向けた1人1台端末活用の在り方（第二年次）

－日常的な利活用と授業における効果的な活用を通して－

福島県教育センター 情報教育チーム 指導主事 高橋 徹

### 1 研究の趣旨

GIGAスクール構想により、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークなどの環境が急速に整備された一方で、教員のICT活用への不安感や抵抗感が大きく、すべての学校がすぐに学びの変容イメージで示す「ステップ1」に踏み出すことは難しいという現状が明らかになった。

昨年度は、1人1台端末の日常的な利活用に向けて「ステップ1」の準備段階を「ステップ0」（A：校内体制、B：校内研修、C：日常使い）と位置付けて研究に取り組んだ。1人1台端末の利活用の推進を図るためには、管理職のリーダーシップ、ICTリーダーの複数配置、学校の実態に合わせた校内研修、日常使いの推進など、多くの課題が挙げられた。これらの課題を解決し「ステップ0」を段階的に進め、さらに学びの変容イメージにあるステップ1～3につなげるために、1年次の成果と課題をリーフレット「1人1台端末の日常的な利活用に向けて」にまとめた。

そこで、本年度は、「ステップ0」の取組における効果の検証及び調査・研究の継続と「ステップ1」から「ステップ2」へ進むための「授業における効果的な活用」について検証することとした。研究協力校における実践事例を発信していくことで、1人1台端末の日常的な利活用を推進すべく、上記の研究主題、副主題を設定し、研究を進めることにした。

### 2 研究の概要

#### (1) 「福島県の情報教育の実態等に関する調査」の実施

情報教育における現状や課題を把握し、見えてきた課題から、改善の方法を検討し、研究協力校における実践に生かす。

#### (2) リーフレット「1人1台端末の日常的な利活用に向けて」を活用した調査研究の継続

ステップ0（A：校内体制、B：校内研修、C：日常使い）への取り組みと教員及び児童生徒のICT活用スキルについて、効果の検証を行う。

#### (3) 「授業における効果的な活用」の3つの視点（A・I・S）の検証

学びの変容イメージの「ステップ1」から「ステップ2」を意識した、1人1台端末を効果的に活用した授業構想、授業実践をするために、3つの視点で（A：アクティブラーニング、I：ICT、S：各教科ならではの活用）で検証を行う。

### 3 成果と今後の課題

#### (1) 「福島県の情報教育の実態等に関する調査」の実施

##### ①成果

○「福島県の情報教育の実態等に関する調査」の結果分析から、「日常使いや教科等の指導において学校全体で利活用が進んでいない」などの実態があり、それを踏まえ、研究協力校での授業構想や授業実践につなげることができた。

##### ②課題

○研究協力校での実践や「福島県の情報教育の実態等に関する調査」の結果から校内研修の内容や形態、体制の工夫を図る必要がある。

#### (2) リーフレット「1人1台端末の日常的な利活用に向けて」を活用した調査研究の継続

##### ①成果

○日常的な利活用の充実に向けて、推進チーム等の校内体制が整備されたことにより、教員、児童生徒のICT活用スキルの向上に一定の効果を見ることができた。

##### ②課題

○ICT活用スキルの更なる向上に向けて、教員、児童生徒の日常使いの充実を図る必要がある。

#### (3) 「授業における効果的な活用」の3つの視点（A・I・S）の検証

##### ①成果

○推進チームやICTリーダーが提案授業を行うことで、「授業における効果的な活用」のイメージが広がり、ステップ2での授業実践が増えた。

##### ②課題

○「授業における効果的な活用」を促進し「ステップ3」の実践事例の発信をする必要がある。